

第31回岩手県がん対策推進協議会

R5.2.9

学校におけるがん教育の取組について

岩手県教育委員会事務局保健体育課
指導主事 遠藤 明子

がん教育・がんに関する知識の普及啓発

（現状・課題）

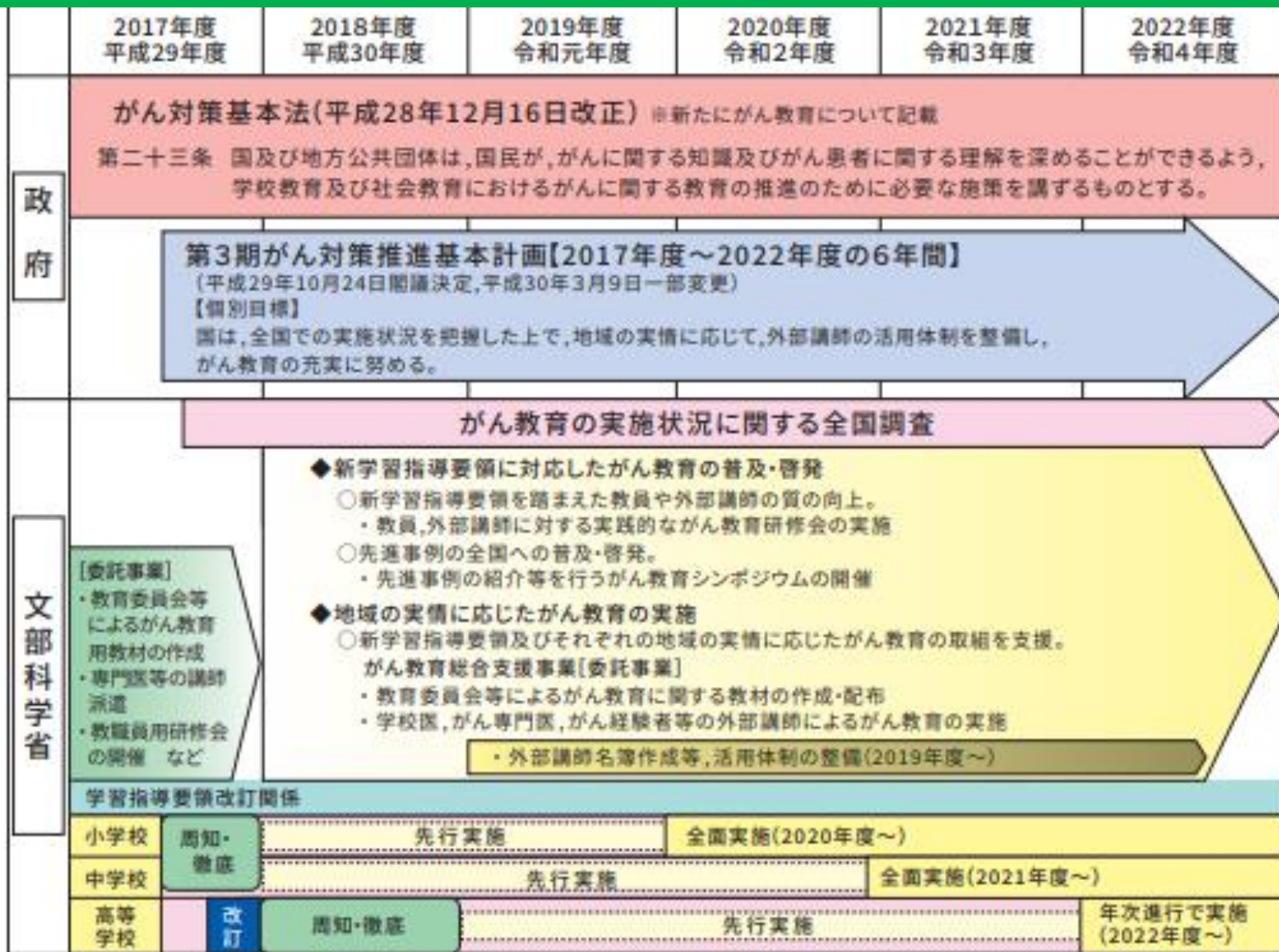
健康については、子どもの頃から教育を受けることが重要であり、子どもが健康と命の大切さについて学び、自らの健康を適切に管理するとともに、がんに対する正しい知識、がん患者への理解及び命の大切さに対する認識を深めることが大切である。これをより一層効果的なものとするため、医師やがん患者・経験者等の外部講師を活用し、子どもに、がんの正しい知識やがん患者・経験者の声を伝えることが重要である。

がん教育・がんに関する知識の普及啓発

（取り組むべき施策）

国は、学校におけるがん教育について、全国での実施状況を把握する。教員には、がんについての理解を促すため、外部講師には、学校でのがん教育を実施する上での留意点や指導方法を周知するため、教員や外部講師を対象とした研修会等を実施する。

がん教育に関する政府と文部科学省のスケジュール



医師やがん経験者等を外部講師として活用し、
がん教育のさらなる充実を図る

図5 「がん教育」に関する政府と文部科学省のスケジュール(文部科学省)

1

岩手県の 取組について

岩手県がん教育総合支援事業 (令和元年度～令和4年度)

1 目的

がん教育の確実な実施に向けた体制づくりとがん教育の普及・啓発を通じて、岩手県の健康教育の充実を図ること。

2 事業内容

- (1) 協議会の設置（年2回開催）
- (2) 「学校におけるがん教育指導者向けマニュアル」の作成（R3年2月発行）
- (3) 「がん教育講演会」外部講師派遣事業
- (4) 研修会の開催
- (5) モデル授業の実施

2

学校における がん教育

学校におけるがん教育の定義

健康教育の一環として、がんについての正しい理解と、がんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育である。

がん教育の目標

(1) がんについて正しく理解することができるようにする。

がんが身近な病気であることや、がんの予防、早期発見・検診等について関心をもち、正しい知識を身に付け、適切に対処できる実践力を育成する。また、がんを通じて様々な病気についても理解を深め、健康の保持増進に資する。

がん教育の目標

(2) 健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする。

がんについて学ぶことや、がんと向き合う人々と触れ合うことを通じて、自他の健康と命の大切さに気付き、自己の在り方や生き方を考え、共に生きる社会づくりを目指す態度を育成する。

学校におけるがん教育で取り扱う内容の例



がん教育の進め方の基本方針（１）

学校教育活動全体で健康教育の一環として行う。

保健体育科を中心に学校の実情に応じて教育活動全体を通じて適切に行うことが大切である。学級担任や教科担任、保健主事などが中心となって健康教育の一環として企画するものであり、必要に応じ、養護教諭とも連携する。また、家庭や地域社会との連携を図りながら、生涯にわたって健康な生活を送るための基礎が培われるよう配慮する。なお、効果的な指導を行うためには、**学校保健計画に位置付ける**などして計画的に実施することが望ましい。

「学校教育活動全体」とは？

- 教科（体育保健体育科）
- 学級活動、ホームルーム活動
- 児童生徒会活動
- 講演会
- 保健だより、掲示物などによる啓発活動
- 学校保健委員会 …等

がん教育の進め方の基本方針（２）

発達段階を踏まえた指導を行う。

小学校では、主としてがんを通じて健康と命の大切さを育むことを主なねらいとする。中学校、高等学校では主として、科学的根拠に基づいた理解をすることを主なねらいとする。その際、各校種のねらいを踏まえ、発達段階を考慮し、外部講師を活用したがん教育を行うなどの工夫を行う。

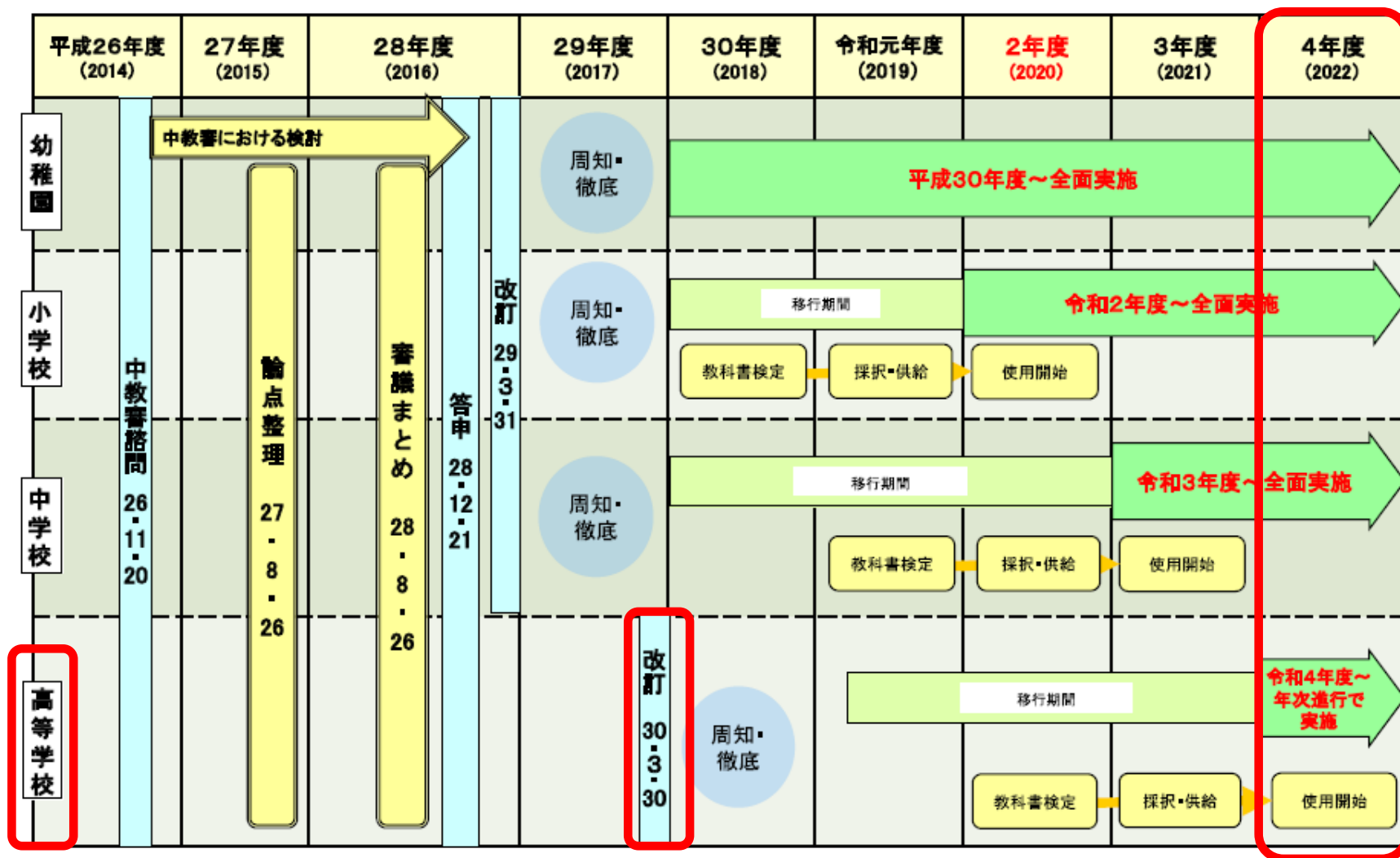
がん教育の進め方の基本方針（３）

外部講師の参加・協力など関係諸機関との連携について

がんに関する科学的根拠に基づいた知識などの専門的な内容を含むがん教育を進めるに当たっては、地域や学校の実情に応じて、学校医やがんの専門医等の外部講師の参加・協力を推進するなど、多様な指導方法の工夫を行うよう配慮する。また、がんを通して健康と命の大切さを考える教育を進めるに当たっては、がん経験者等の外部講師の参加・協力を推進する。

それぞれの専門性が十分生かせるような指導の工夫を行い、教員と十分な連携のもと外部講師を活用したがん教育を実施する。

学習指導要領改訂に関するスケジュール



特別支援学校学習指導要領(幼稚園部及び小学部・中学部)についても、平成29年4月28日に改訂告示を公示。
特別支援学校学習指導要領(高等部)は、平成31年2月4日に改訂告示を公示。

小・中・高等学校の保健の内容

小学校 (体育科保健領域)	中学校 (保健体育科保健分野)	高等学校 保健体育科「科目保健」
<p>「健康な生活」(3年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康な生活 1日の生活の仕方 身の回りの環境 <p>「身体の発育・発達」(4年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 体の発育・発達 思春期の体の変化 体をよりよく発育・発達させるための生活 <p>「心の健康」(5年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 心の発達 心と体との密接な関係 不安や悩みへの対処 <p>「けがの防止」(5年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその防止 けがの手当て <p>「病気の予防」(6年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 病気の起こり方 病原体が主な要因となって起こる病気の予防 生活行動が主な要因となって起こる病気の予防 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 地域の様々な保健活動の取組 	<p>「健康な生活と疾病の予防」 (1、2、3年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康の成り立ちと疾病の発生要因 生活習慣と健康 生活習慣病などの予防 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 感染症の予防 健康を守る社会の取組 <p>「心身の機能の発達と心の健康」 (1年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 身体機能の発達 生殖に関わる機能の成熟 精神機能の発達と自己形成 欲求やストレスへの対処と心の健康 <p>「傷害の防止」(2年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因 交通事故などによる傷害の防止 自然災害による傷害の防止 応急手当 <p>「健康と環境」(3年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 身体の環境に対する適応能力・至適範囲 飲料水や空気の衛生的管理 生活に伴う廃棄物の衛生的管理 	<p>「現代社会と健康」</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康の考え方 現代の感染症とその予防 生活習慣病などの予防と回復 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 精神疾患の予防と回復 <p>「安全な社会生活」</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全な社会づくり 応急手当 <p>「生涯を通じる健康」</p> <ul style="list-style-type: none"> 生涯の各段階における健康 労働と健康 <p>「健康を支える環境づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境と健康 食品と健康 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関 様々な保健活動や社会的対策 健康に関する環境づくりと社会参加 <p>(原則として、入学年次及びその次の年次の2か年にわたり履修)</p>

3

がんの授業の実際

小学校の実践：特別活動（学級活動）

対 象：第5学年

授業者：学級担任

外部講師：がん患者団体のがん経験者

題 材：「がん患者の話を聞き、
自らの健康や命の大切さに気付く」

<学習指導要領における位置づけ>

学級活動

(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

☆あなたは「がん」になった人と

話をすることがありますか。

ある 5人
ない 18人
わからない 2人

☆あると答えた人は、

どんなことに気を付けて話をしましたか。

- ・マスクをする。
- ・距離を取る。
- ・長時間同じ部屋にいない。
- ・前と同じように話した（差別しないという意味で）。
- ・聞いた後は、あまりそのことは言わないようにしていた。
- ・「元気になってね」と声をかけるなど、元気になってほしい
- ・ということを思っ
- ・がんの話はしないようにする。また、させないように
- ・いつものように話す。
- ・周りを気にしない。また、気にさせないように

がんを^{ちりつ}治療しながら生活をしている
がん患者^{がんじや}に対する自分の考えを深めよう。

小学校のがんの授業の様子

私は乳がんの経験者です。

実は自分で見つけました。
おっぱいを触ってしこりが
あったので病院に行きました。

皆さんにお願いです。ときどきでいいからお母さんと一緒にお風呂に入ってほしい。乳がん患者さんの中には、子どもが気付いたという方もいるからです。

手術で左のおっぱいを取ってしまいましたが、命はしっかりいただいて帰ってきました。悪いものは取ったから元気になるかな...と思ったけど、心が元気になれませんでした。再発とか転移が心配だったからです。

みなさんが親からいただいた、たったひとつの自分のからだ、いのちを大切にしてくれたら嬉しいです。

小学校のがんの授業の様子



楽しく接したいと思うけど、
手伝ってあげるとかが増え
ちゃうかな。(女子)

特別な感じで接するのは
相手も嫌かなと思う。
(男子)

いつもどおり接する。差別
とか、いつもと違う態度を
するのはよくないと思った。
(男子)

病気だということを忘れさ
せてあげらるように明るく
接したい。(女子)



児童の感想

小学校のがんの授業の様子



最初は「がん」って重くて、手術すれば治ることもあるのではないかと、あまり現実味が無かった。けれど、2人にひとりががんになると聞いて驚いた。そんなに確率が高いのも驚いたけど、そんな身近なことを全く知らなかった自分自身に驚いた。

鈴木さんのお話を聞いて、がんは体も大変だけれど、それが治っても不安や恐怖が続くとわかった。

だから、がんにかかった人と関わる時は、普通に接して、明るい話をしようと思った。また、だれでもなる可能性があるため、他人事だとは思わずに、真剣に向き合っていこうと思った。

そして、がんの人でも楽しく過ごせる社会にしたい。

小学校 体育科 における学習内容

第5学年及び第6学年

(3) 病気の予防

ア 知識

(I) 喫煙，飲酒，薬物乱用と健康

㊦ 喫煙については、せきが出たり心拍数が増えたりするなどして呼吸や心臓のはたらきに対する負担などの影響がすぐに現れること、受動喫煙により周囲の人々の健康にも影響を及ぼすことを理解できるようにする。また、喫煙を長い間続けるとがんや心臓病などの病気にかかりやすくなるなどの影響があることについても触れるようにする。

対 象：第2学年

授業者：保健体育科教諭

<学習指導要領における位置づけ>

健康な生活と疾病の予防

ア 知識

**(ウ) 生活習慣病
などの予防**

- ・生活習慣の乱れと生活習慣病などとのつながり
- ・**がんの予防**

イ 思考力,判断力,表現力等

- ・健康な生活と疾病の予防について,課題を発見し,その解決に向けて思考し判断するとともに,それらを表現すること

■ 展開の工夫

◎ 文部科学省教材の活用

知識の指導（がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する病気であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあること）において、文部科学省 がん教育推進のための教材及び補助教材（スライド教材）を使用した。



中学校のがんの授業の様子





中学校のがんの授業:授業の様子

がんにならないために、下の表で自分の生活を振り返ってみよう。

◎：毎日できている ○：ほぼ毎日できている
△：あまりできていない ×：ほぼできていない

項 目	チェック	改善策
しっかりと睡眠時間を確保する（目安7時間程度）		
規則正しく、栄養バランスのよい食事をとる		
保健体育の授業以外で1日60分以上の運動・遊びを行う		
目標を決めて実現のために努力する		
日常的に起こるストレスに適切に対応する		
自分を大切にする		



生徒の感想



早期発見の大切さ、生活習慣の見直しが大切だなと思いました。「がん」は、ちゃんとした原因が未だに分かっていない部分もあるので怖いと思いました。もし、身近な人、自分が「がん」になったら、あせらず落ち着いて向き合っていきたいと思いました。いつどのタイミングでなるか分からない「がん」に立ち向かえるような体作りをして、検診をちゃんとしていきたいです。

高等学校の実践：特別活動（ホームルーム活動）

対 象：第1学年

授業者：1学年担当教諭（保健主事・家庭科）

題 材：「がん患者への支援を考える

～QOLの維持・向上をめざして」

<学習指導要領における位置づけ>

ホームルーム活動

(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

才 生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立

がん教育の授業

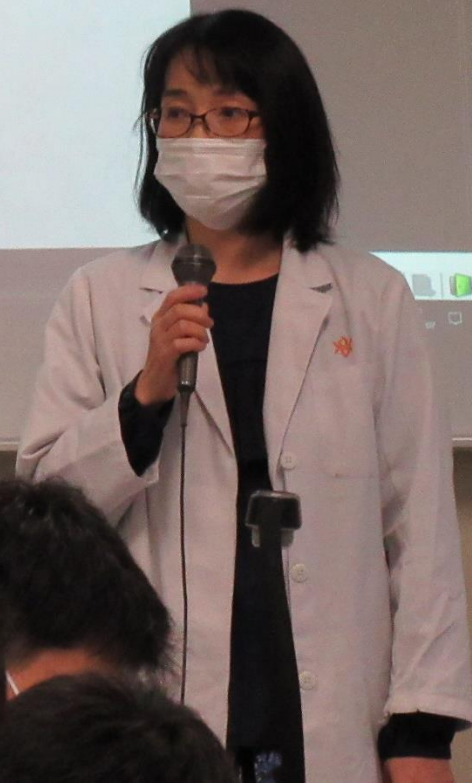
令和4年10月7日(金)6校時

<本時の目標>

がんを取り巻く課題を理解し、
がん患者への必要な支援を
考えよう。

<調べ学習の発表>

8班×5分以内



テーマ **がんの治療費、保険(介護保険・民間のがん保険)****がんの治療費**

まず初めに、がんになると何のお金がいくらかかるのか、

血液検査、CT、レントゲン、エコーや生検などの検査費用
 診察費用
 手術費用
 調剤薬局で支払う薬代
 病院で支払う抗がん剤治療などの薬代
 入院費用、介護費用
 収入減
 などが挙げられます

少なくともこの内容で80万以上もかかってしまうのです...

そこで、大事になるのが**がん保険**！

ここでは、がん保険についてまとめました。

がん保険について

診断給付金（一時金）、**入院日額**、**治療給付金**（抗がん剤などの治療をする月ごとに支払われる）、など様々な保障を選ぶことができます。

診断給付金も2年に1回の給付から1年に1回の給付をもらえる保険もあり、保障の範囲（上皮内新生物を含むかどうかなど）も様々です。

また、収入減を『**働けなくなったときの保険**』でカバーできます。

このように色々な保険で自己負担をおよそ**3割**ほど減らすことができるのです。

がん保険の利用者割合

下のグラフのようにがん保険の加入者は年々増加傾向にあることから、実際に多くの方が必要になったり、役に立っていることが分かります。



これを知っておくと

少しは安心できるね！



テーマ

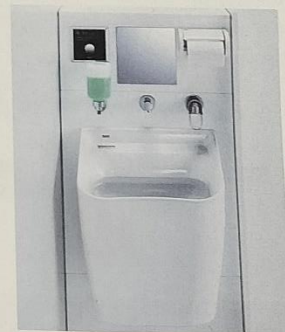
オストメイトと安全な水とトイレを世界中に

様々な病気や事故などにより、お腹に排泄のための『ストーマ（人工肛門・人工膀胱）』を造設した人たちのことを『オストメイト』といいます。

なぜ、オストメイトが、がんに関係しているのかという点と直腸がんなどにより、腸が切除されて、腹部に、排泄のための開口部を、造設することになるからです。



←左の絵がストーマをつけている場合
 右の絵がストーマをつけていない場合

**安全な水と****トイレを世界中に**

6 安全な水とトイレ
 を世界中に



現在、世界では安全な水とトイレにアクセスできない人が大勢います。2017年時点では世界人口の10人に3人は安全な飲料水を使えず、10人に6人は安全な衛生施設を利用できない状況です。安全な水やトイレを利用できないと言うのは、生きていく上で様々な問題を引き起こし、特に健康面では多大な損害を被ることになります。そのために「安全な水とトイレを世界中に」を目標にしていきたいと思います。

がんを取り巻く問題

職場

8 働きがいも 経済成長も	8 働きがいも 経済成長も	8 働きがいも 経済成長も
仕事と治療の 両立	職場の理解	就労差別

家庭

5 ジェンダー 平等を 実現しよう	8 働きがいも 経済成長も	8 働きがいも 経済成長も
家事・介護 の分担	家事と治療 の両立	育児と治療の 両立

社会問題

1 貧困を なくそう	1 貧困を なくそう	1 貧困を なくそう	4 質の高い 教育を みんなに
貧困	悪質商法	治療費 ・保険	ヤングケアラー

相談・支援

16 平和と公正を すべての人に	16 平和と公正を すべての人に
自治体の支援	がん相談 ホットライン

17佐々木 隆人
禁煙やバランスのよい食事、適度な運動をしてがんを予防しよう。そして、がん検診を受けよう。

33千原 智
喫煙 飲酒 運動不足 全てががんのリスクを高める。

25菅原 寿
月頃からの意識。バランスのよい食事、そして時間とお金を活用。がんの検診は、早期であれば早期発見できる。

18遠藤 亮
正しい生活習慣を心掛けてほしい。飲酒・喫煙はほどほどに！検診を受ければがんは、発がんを予防できる！！

11小野寺 秀悟
がん検診に行き、がんを予防して元気でいてください。健康寿命を長く生えてください。

38三浦 義大
お酒や煙草を止める人は、栄養バランスの良い食事と適度な運動を心掛けてください。そして、がん検診をしっかり受けて下さい。

7橋原 匠人
早めの検診と正しい生活習慣を。『節酒』

22菅原 真
健康な生活を送るために、日頃から適度な食事、適度な運動を心掛けてください。

27菅原 優
禁煙、禁酒を心掛けて自分の健康に気をつけましょう。

40吉田 純生
がんにならないような生活習慣を心掛けてほしい。望ましいがん予防法として、禁煙、禁酒、適度な運動、バランスのよい食事、定期的ながん検診を受けることが大切です。

30千田 素人
がんにならないように、定期的ながん検診を受けることが大切です。がんは早期発見・早期治療が大切です。

21佐藤 麗菜
規則正しい生活習慣を送って、がん検診を受けよう。食事、運動、睡眠に気を配りながらがんを予防しよう。

32千原 大知
禁煙、禁酒、適度な運動を心掛けて生活しよう。がん検診やがん予防検査を受けるようにしましょう。

14川島 啓人
禁煙、禁酒、健康な生活を送ろう。がん検診を受けよう。

2阿部 陽向
がんにならないためには、普段から適度な運動をし、バランスの良い食事をとり、定期的ながん検診を受けることが大切です。

24菅原 雄
がん検診は、早期発見・早期治療のチャンスです。がん検診を受けることが大切です。

22島崎 天翔
検診を受けてください。健康な生活を送ってください。

10小野寺 愛莉
禁煙や禁酒などの生活習慣を見直し、がんを予防しよう。がん検診を受けることが大切です。

4伊藤 優利
早期発見・早期治療が大切です。がん検診を受けることが大切です。

30山 康
がん検診を受けたら、がんを予防しよう。がん検診を受けることが大切です。

20高橋 悠斗
がんを予防しよう。がん検診を受けることが大切です。

3伊藤 健雄
禁煙、禁酒、適度な運動を心掛けて生活しよう。がん検診を受けることが大切です。

1阿部 一
早期発見・早期治療のチャンスです。がん検診を受けることが大切です。

18佐々木 豊彦
バランスの良い食事、適度な運動を心掛けて生活しよう。

20菅原 希美
大人になったら、お酒や煙草を控えよう。がん検診を受けることが大切です。

35西米 琉汰
食習慣や運動不足などの生活習慣を見直し、がんを予防しよう。がん検診を受けることが大切です。

13加藤 優真
がんにならないように、定期的ながん検診を受けることが大切です。

3石川 通雅
がんにならないように、定期的ながん検診を受けることが大切です。

12加藤 雄翔
健康的な生活を送ろう。がん検診を受けることが大切です。

5相澤 結希
3人に1人が、がんになる。がんを予防しよう。がん検診を受けることが大切です。

3伊藤 健雄
禁煙、禁酒、適度な運動を心掛けて生活しよう。がん検診を受けることが大切です。

18佐々木 豊彦
バランスの良い食事、適度な運動を心掛けて生活しよう。

37藤原 洋人
年々増えるがん患者。早期発見・早期治療が大切です。がん検診を受けることが大切です。

9長田 涼風
定期的ながん検診を受けることが大切です。がん検診を受けることが大切です。

20佐藤 祐希
しっかりと食事、適度な運動を心掛けて生活しよう。がん検診を受けることが大切です。

34中橋 龍介
バランスの良い食事をし、塩分を控えよう。

28高橋 秀
食生活、飲み過ぎ、がんの予防。がん検診を受けることが大切です。

10佐藤 光
がんの予防は、禁煙、禁酒、適度な運動、バランスの良い食事、定期的ながん検診を受けることが大切です。

15菊地 真希
禁煙、禁酒、適度な運動を心掛けて生活しよう。がん検診を受けることが大切です。

31千原 大樹
禁煙、禁酒、適度な運動を心掛けて生活しよう。がん検診を受けることが大切です。

大切な人への メッセージ M1

(1) 現代社会と健康 (ウ) 生活習慣病などの予防と回復

がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などを適宜取り上げ、これらの生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活が続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることを理解できるようにする。

その際、**がん**については、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて理解できるようにする。**がん**の回復においては、手術療法、化学療法（抗がん剤など）、放射線療法などの治療法があること、患者や周囲の人々の生活の質を保つことや緩和ケアが重要であることについて適宜触れるようにする。

また、生活習慣病の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることを理などの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診解できるようにする。

なお、日常生活にスポーツを計画的に取り入れることは生活習慣病などの予防と回復に有効であること、また、運動や食事について性差による将来の健康課題があることについて取り上げるよう配慮する。

高校生対象のがん教育講演会講師派遣事業

県内がん診療連携拠点病院に協力を依頼し、医師等講師の派遣を行っている



H28年度	14校
H29年度	11校
H30年度	14校
R元年度	14校
R2年度	11校
R3年度	12校
R4年度	10校

がん教育を行う際に配慮すべきこと

＜児童生徒の心理面について＞

家族や身近な人ががんの治療中であつたり、がんによってなくなつたりしている児童生徒へ心理面の配慮が必要です。

配慮が必要な児童生徒がいることを想定して、対応することが重要です。

また、がんの原因は解明されていない部分もあり、わかっている原因については対策をとれますが、現在の科学ではがんに罹患する可能性をゼロにできないため、がん患者を支える社会の必要性に気付かせるという学習の方向性が重要です。

がん教育を行う際に配慮すべきこと

＜小児がんについて＞

学校で扱うがんは「成人のがん」であり、「小児がん」について学ぶものではありません。

特に、小児がんの治療中あるいは既往歴のある児童生徒がいる場合は、事前に当該児童生徒の保護者と授業実施にあたって配慮すべき点を確認しておく必要があります。

がん教育を行う際に配慮すべきこと

＜生活習慣病とがんの関連性について＞



規則正しい生活習慣によって、将来がんになる危険性を低くすることができますが、絶対にがんにならないわけではありません。

がんには、まだ原因が判明していないものもあります。すべてのがん患者が、生活習慣が悪かったという誤った印象を与えないように注意してください。

● がん教育推進のための教材 補助教材

がん教育を実施する際の参考資料となるよう、文部科学省において作成した「がん教育推進のための教材」

小学生版

- ▶ [補助教材:教師用指導参考資料 \(PDF:3.1MB\)](#) 
- ▶ [映像教材:がん博士の「がんについての基礎知識」、「がんと生きる」エピソード1・2 口](#)
- ▶ [ワークシート \(PDF:3.5MB\)](#) 

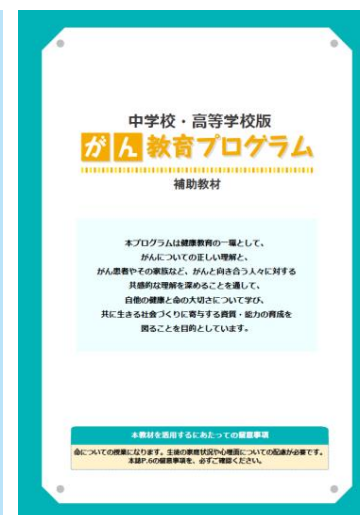
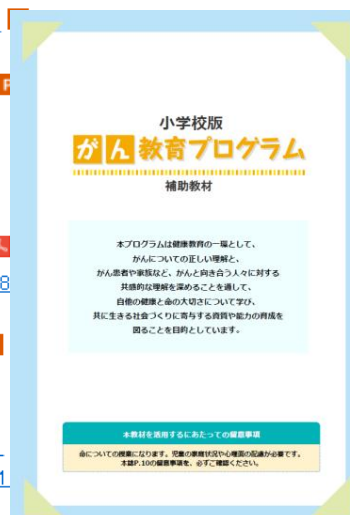
中学校・高等学校版

- ▶ [補助教材:教師用指導参考資料 \(PDF:2.5MB\)](#) 
- ▶ [スライド教材モジュール1:がんという病気 \(15スライド\) \(PDF:2.9MB\)](#) 
- ▶ [スライド教材モジュール1:がんという病気 \(15スライド\) \(PowerPoint:934KB\)](#) 
- ▶ [スライド教材モジュール2:日本のがんの現状 \(12スライド\) \(PDF:2.8MB\)](#) 
- ▶ [スライド教材モジュール2:日本のがんの現状 \(12スライド\) \(PowerPoint:954KB\)](#) 
- ▶ [スライド教材モジュール3:がんの発生と進行 \(16スライド\) \(PDF:2.2MB\)](#) 
- ▶ [スライド教材モジュール3:がんの発生と進行 \(16スライド\) \(PowerPoint:1.5MB\)](#) 
- ▶ [スライド教材モジュール4:がんの予防 \(13スライド\) \(PDF:2.4MB\)](#) 
- ▶ [スライド教材モジュール4:がんの予防 \(13スライド\) \(PowerPoint:844KB\)](#) 
- ▶ [スライド教材モジュール5:検診の意味 \(12スライド\) \(PDF:1.9MB\)](#) 
- ▶ [スライド教材モジュール5:検診の意味 \(12スライド\) \(PowerPoint:1.4MB\)](#) 
- ▶ [スライド教材モジュール6:がんの治療で大切なこと \(11スライド\) \(PDF:1.4MB\)](#) 
- ▶ [スライド教材モジュール6:がんの治療で大切なこと \(11スライド\) \(PowerPoint:758KB\)](#) 
- ▶ [スライド教材モジュール7:がん治療の支援 \(14スライド\) \(PDF:2.1MB\)](#) 
- ▶ [スライド教材モジュール7:がん治療の支援 \(14スライド\) \(PowerPoint:1.2MB\)](#) 
- ▶ [スライド教材モジュール8:がん患者の思い \(5スライド\) \(PDF:1.1MB\)](#) 
- ▶ [スライド教材モジュール8:がん患者の思い \(5スライド\) \(PowerPoint:653KB\)](#) 
- ▶ [スライド教材モジュール9:がん患者と共に生きる社会 \(13スライド\) \(PDF:1.5MB\)](#) 
- ▶ [スライド教材モジュール9:がん患者と共に生きる社会 \(13スライド\) \(PowerPoint:1.1MB\)](#) 



学校におけるがん教育の在り方について
報告

平成27年3月
「がん教育」の在り方に関する検討会



学校におけるがん教育指導者向けマニュアル

令和3年2月 岩手県教育委員会事務局保健体育課発行

保健体育課 | 管理 | ログアウト

ログインはこちらか

岩手教育情報交流ネット

オンラインユーザー ▶ 3人

ログインユーザー ▶ 2人

登録ユーザー ▶ 1530人

COUNTER

041573

▶ トップページ

▶ 【研修講座実施要項】

▶ 【研修講座申込】

▶ 【研修講座 昼食注文】

▶ @ひろば

▶ 保健体育課

▶ 体力向上・健康教育取組事例

▶ 授業改善の取組

▶ 授業以外の取組

▶ 家庭・地域との連携

授業改善の取組

授業改善の取組

フォルダ作成 ファイル追加

フォルダ	名前	サイズ	作成者	作成日	更新者	更新日
授業改善の取組	一つ上へ					
がん教育	学校におけるがん教育指導者向けマニュアル		保健体育課	21/02/22 10:03	保健体育課	21/02/22 10:03
学校におけるがん教育	岩手県がん教育のための教材（中学校版）		保健体育課	21/02/22 10:04	保健体育課	21/02/22 10:04
岩手県がん教育のため	文部科学省資料		保健体育課	21/03/12 14:14	保健体育課	21/03/12 14:14
文部科学省資料	資料BOX		保健体育課	21/02/22 10:03	保健体育課	21/02/22 10:03
資料BOX						
薬物乱用防止教育						
「薬物乱用防止教室」						
DARPの手引（H2）						
01全体						
02DARPシナリ						
03DARPシナリ						

2020

学校における
がん教育指導者向け
マニュアル

岩手県教育委員会

一般社団法人 全国がん患者団体連合会（全がん連）

ホーム
Home

団体概要
About

加盟団体
Groups

ニュース
News

ご支援のお願い
Donate

お問合せ
Contact

がん教育外部講師のためのeラーニング

HOME > がん教育外部講師のためのeラーニング



対象
医療者
がん経験者など

がん教育外部講師養成プロジェクト

がん教育外部講師のための
eラーニングができました！

なぜ、がん教育なのでしょう？

「がん」という病気を通じて、健康と命の大切さを育みます。

第3期がん対策推進基本計画（平成30年3月9日閣議決定）では、「がん予防」「がん診断の充実」「がんとの共生」を支える基盤の整備のひとつとして「がん教育、普及啓発」が挙げられています。がん教育の目的については、「①がんについて正しく理解することができるようになる健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようになる」となっています。

がん教育とはなんなのでしょう？

がんについての正しい理解、がんと向きあう人々への理解、自他の健康と命の大切さについて学ぶための教育です。

文部科学省の検討会によると「がん教育は、健康教育の一環として、がんについての正しい理解と、がん経験者や家族などのがんに向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通じて、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育である」と定義されています。

がん教育の外部講師とは？

医師やがん経験者等の外部講師を活用することが推奨されています。

がんに関する科学的知識に基づいた知識などの専門的な内容やがんを通して健康と命の大切さを伝える教育を進めようとしている、医師やがん経験者等の外部講師を活用するべきではないか、などとする「学校におけるがん教育の在り方について」報告書（「がん教育」の在り方に関する検討会）を平成27年3月にもまとめたことから、「がん教育」には外部講師との連携を推奨されているところがあります。

医療者がなぜ外部講師に？

医療者が伝えることで説得力が増します。

「がんについて正しく理解することができるようになる」、がん教育の目標のひとつです。児童生徒が正しい知識を身に付けるだけではなく、医療者が伝えることによりがんに対する誤解、差別や偏見の軽減、がんだけではなく様々な病気についても理解を深め、ヘルスリテラシーの向上にも繋がります。

がん教育の対象は誰ですか？

小・中・高校生を対象にしています。

がん対策基本法では「国及び地方公共団体は、国民が、がんに関する知識及びがん患者に関する理解を深めることができるよう、学校教育及び社会教育におけるがんに関する教育の推進のために必要な施策を講ずるものとする」と明記されています。一般の大人の人やがん経験者に対しては教育や情報提供は必要ですが、本プロジェクトでは小・中・高校生を対象としています。

外部講師（がん経験者）は、何を話せばいいのでしょうか？

がん経験者だからこそ伝えられることがあります。

がん教育を実施する上で、小学校では「がんを通じて健康と命の大切さを育むこと」、中学校・高等学校では「科学的知識に基づいた理解をすること」を主眼とされています。患者さんやご家族と日々向き合う医療者の声には説得力があり、教育の場でも非常に意義のあることです。

外部講師（がん経験者）は、何を話せばいいのでしょうか？

がん経験者だからこそ伝えられることがあります。

がん教育を実施する上で、がん経験者のメッセージは「健康と命の大切さ」を伝えるだけでなく、効果的だと言われています。がん経験者が自身の経験を伝えることで、子ども達がよりがん経験者や家族への理解を深められることは、非常に意義があります。

今回の「がん教育外部講師のためのeラーニング」の対象は誰ですか？

医療者とがん経験者等が対象となります。

医療者＝医師や看護師など、有資格者であれば開業でなくても可
がん経験者＝患者、家族、遺族、団体に所属してはいなくても可。

合わせて
がん教育における
配慮事項ガイドライン
も読んでください



全がん連がん教育外部講師養成プロジェクト
HPよりダウンロード
できます

企画・発行：一般社団法人 全国がん患者団体連合会
協賛：国立がん研究センター
編集：がん教育外部講師養成プロジェクト実行委員会

この教材は、ノベルティス・ファーマ株式会社、アフラック生命保険株式会社の共同で制作されました。
なお、内容に誤差を生じるものではありません。

【岩手県】

■医療者はこちら

- 菊池 麻衣子（その他の医療職／一般財団法人岩手済生医会中津川病院）
及川 陽次（歯科医師／おいかわ歯科医院）
高橋 美保（保健師／ホームケアクリニックえん）
千葉 恭一（医師／ホームケアクリニックえん）
守口 尚（医師／医療法人希実会守口医院）
松本 佳織（看護師／ホームケアクリニックえん）
木村 祐輔（医師／岩手医科大学）
村上 雅彦（医師／岩手県立大船渡病院）
小野寺佳美（薬剤師／れもん薬局）

■がん経験者・ご家族はこちら

- 及川 英樹（がん経験者／リレーフォーライフジャパンきたかみ）
名須川玲一（がん経験者の遺族）
高橋 みよ子（がん経験者／パシエントアクティブびわの会）
菊地 和恵（がん経験者の遺族／リレー・フォー・ライフきたかみ）